

## タル流し漁法現地研修報告書

平良市漁協青壮年部城辺支部

### 1. 目的

城辺町青壮年部では潜水器漁業にかわる漁法の導入と、未利用の深海高級魚を漁獲対象にしたタル流し漁法の技術習得によるぎょぎょう経営の改善を図る目的で現地研修を実施した。

2. 現地研修年月日；平成7年12月13日（水）  
平成7年12月

3. 参加者；平良市漁協青壮年部城辺支部

幸 地 和 夫  
国 吉 辰 夫  
楚 南 弘 克

4. 協力者；沖縄県指導漁業士 根間 登志夫

指 導；宮古支庁農林水産課水産係

主任技師 長 嶺 巖

使用漁船；ゆたか丸 船主（根間 登志夫）

### 5. 研修の内容

午前8時30分宮古支庁に集合し狩俣漁港に向かう。狩俣漁港では、研修を引き受けてくれる指導漁業士の根間さんが待機していた。

自己紹介をしたあと、根間さんの所有船ゆたか丸1.8トンに5人乗船して、池間島北西の漁場へ向け9時30分漁港を出港。

前日とは違って変わって海上は凪いでおり大漁への期待に話がはずむ。25分程で漁場に到着。

自動航跡記録装置に電波障害が発生し使用できないため島あてとカラー魚探で漁場を確認し、水深260mの平坦な地形でキビレアカレンコ（通称レンコダイ）を狙うことにした。

簡単にタル流し漁具・漁法を根間さんから説明してもらい10：00分操業開始。

最初にオモリの鉄筋（3分筋：180cm）を降ろし、サンマの切り身を装着した釣り針（10本）、集魚用水中灯（ミニライト単3、2個入り）中間浮きを投下してタルに収納して幹縄（クロスロープ3mmの500m）を連結すると、タル、旗竿を同時に海面におろして漁具の投下は約2分で完了。

タルに入っていた幹縄は勝手に260mの海中に降りていった。

最初は根間さんが投下したが、あまりの簡単な漁具投下で研修者全員あせんとする。

次は、同じ要領部員3人が降ろすことになった。2個目のタルは3人が分担して枝縄部分タル旗を順次投下、慣れるのが早いのか、漁法が簡単すぎるのか、一人でもできるようになった。

10分もかからずに3タル投下して休憩。通常だと30分おいてから巻き上げにかかるが、今回は15分休憩してから漁具を巻き揚げることにした。

10：30分船を風下から標識旗に接近させて旗、タルを船上に揚げた。タルはベビーホーラーの下に置いて幹縄をホーラーに掛けて巻き揚げ開始。

500mの幹縄は機械が全部巻き揚げてくれるので、時々タルの中の縄を均等に収納する作業をするだけ。やることがないのでタバコの本数が増える。国吉辰夫は背広にネクタイをはめて漁ができると冗談をとばす。楚南は電灯もぐりがバカらしいという。

10分後中間浮きが見えてきた、浮きをかわして再びホーラーで巻くと水中灯が揚がってきた、そこからは枝縄部分の手揚げでとなる。

水中で針に掛かった魚が3尾白く見える。船に引き上げるとマダイそっくりの大型レンコダイ。高級魚がいとも簡単に釣れるのか「きれいな魚だなー」始めて見る深海のタイにびっくりした様子。

2 タル目はホーラーの操作から漁具の回収、収納、エサ付けまで青壮年部員がすべてやることにした。

レンコダイ釣りは2回、6タルの操業でキビレアカレンコ8尾(7kg)、ハナフェダイ(ピタロー)5尾。ハナフェダイはほとんどタチウオかサメが喰いちぎって頭しか付いていないものもあった。

12:40分、シチュウマチとアカマチ(和名ハマダイ)を狙って、八重干瀬北側漁場に移動。

13:10分漁場到着、GPS(自動航跡記録装置)のエラーも直って漁場位置確認がスムーズにいった。漁探で地形を確認して水深180mに200m間隔で漁具を3タル投下。15分後の揚げ縄を開始、2タルは漁獲なし。

冬場で魚がいなくなったのかなと船頭は悩む。3タル目にオオグチイシチビキが1尾あがる。

最後にアカマチを狙って、水深350mに1タル投入、20分おいてから巻き上げると、待望の最高級魚アカマチが1尾、ウチワフグ(無毒)が4尾漁獲された。

14:50分、操業を終了して帰路につく、八重干瀬の西側を通り抜けて、池間大橋の下をくぐり、15:35分狩俣漁港に帰港した。

短い時間の研修であったが、指導漁業士の根間

さん、普及員の長嶺さんの好指導のおかげで、漁具の扱い方、操業方法が十分取得できて大変ありがとうございました。

## 5. 研修所感

タル流し漁法の研修会に参加して感じたこと。

- (1) 漁具が簡単につくれて、取り扱いが容易にできること。
- (2) 漁具の消耗がほとんどないこと。
- (3) 漁場が近く、1日の操業経費が3,000円と安いこと。
- (4) 狙う漁種によって漁場が広範囲に使えて未利用漁場の開拓ができること。
- (5) ラインホーラーなど機械を使用することによって漁労作業が楽なこと。
- (6) 深海の高級魚を漁獲することによって漁業経営の改善が図られること。

その他にもいろいろ勉強になったが、この貴重な経験を今後、城辺で実践しながら水産業の振興につなげていきたいと思います。この企画を推進して頂きました城辺町産業振興課、宮古支庁農林水産課、現場指導に多大なご協力を頂いた指導漁業士の根間登志夫さんには、心からお礼申し上げ研修報告といたします。



